



新潟の水辺 だより

Vol.32

《新潟の水辺だより》 ●編集発行・新潟の水辺を考える会 ●発行日・1995年6月15日 Vol.32
●〒950 新潟市大学南1丁目7821-5 (株)グリーンシグマ内 Phone025-263-2733 Fax025-263-1134

TOPICS

信濃川に別天地を創りたい

三川合流点の公園化を考える会
代表 高橋 裕雄

◆おかげさまで大成功でした 水辺ウォッチング!

5月7日爽やかな晴天、風も快く天国に居るような日和。このウォッチングの最大功労者は天気そのものでした。

大型連休の最終日曜日慌ただしくウォッチングに急行したにもかかわらず、100名にも達しようかという大盛況、あまりの反響にびっくり。主催慣れしておらず、不安を覚えたが、さすが人材の水辺を考える会。代わる代わる興味ある話に、参加者全員満足の様子。もっともっと時間が欲しいほど楽しかった。

9:40 相模さんの司会で大熊先生、本田先生、竹内白根市長、浅妻黒崎町長と挨拶を頂き、一周1kmほどのコースへ出発。大通川東岸、信濃川左側を2時間かけてゆっくり回って来る予定。

最初に大熊先生から水門と堰の違い、矢板、垂直、蛇籠、植樹についての説明を頂いた。植物の話へ移り、白根の井部先生から飛び入りでこの辺りの詳しい話をお聞きする。

エゾタンポポヤスカンポでどっと盛り上がった。こうした時は童心に戻ってよい。

対岸の天野にきたアオサギにフィールドスコープをセット望遠鏡が役立ったワンシーンでした。釣名人の青木さんに大漁のヘラブナ、マブナを観せて

もらい、その隣に居た少年の40cmを超えるかというブラックバス2匹に一同びっくり。

魚に詳しい(非常に)井上さんはブラックバスは危険、釣ったら食べる→キャッチアンドスタックが良いとのこと。この大通川はまだまだヘラブナが多い。入漁無料で全国的に有名なこともあり、シーズン中釣人の絶える事は決して無い素晴らしい川なのです。

大通川の先端まで行き凌辱された



熱心に観察する子供たち

岸辺について石月さんの説明を受ける。ヒメガマやマコモの層が壊され、水鳥が来るようになるには相当の年数が要ると、ガンカモに詳しい(非常に)本田先生。

アシの類別を井部先生があらお聞きして、いよいよ本日のメインイベント井上さんの水たまりウォッチングへ。

大小4~50の水たまりでダンブが通路にあげたものだが、大きさも深さも様々で、7~8年を経てケイソウ類、生物の発生に差が生じており大変に面白かった。シマゲンゴロウや小型のゲンゴロウ、アメンボ、ミズムシなど甲虫も多く、丸々太った赤いミジンコに溢

れている。これは正しく小さなビオトープを覗き込んでいるのだ。

広い所に林の中で、あるいはアシ原の中へ、大きさ、深さを変えた池をたくさん作ってやれば、立派なビオトープに成る事だろう。そんな理想像を連想させてくれる。解説者が立派だと浅い水たまり一つとっても、とても良い勉強になるとつくづく実感しました。

この後、バンダウサギの原を通過してウォッチングは終了、合流点の先端へ移動、ビール、昼食を済ませ、ディスカッションへ。

贅沢極まる解説陣に恵まれ素晴らしい話の数々を頂き、ディスカッションでは多くの方の発言を本当にありがとうございました。お礼申し上げます。

オプションとして林の中へ散策、その後明治36年に造られた初代水門跡へそして瀬ヶ通の鳥と水路を見て解散に至りました。長時間御苦労さまでした。

6月11日、この瀬ヶ通の水路をカヌーで出発、午後から四台の放置車両の片付けを行いました。

近い将来、この三川合流点そして瀬ヶ通の鳥を含める形で増自然型公園として、市民参加の水辺づくりの模範となれるよう精力的に行動を決して行きますので御意見、御指導、御協力よろしくお願い申し上げます。

5.19ハルビン市の水辺都市考察団 と水辺の会との研究交流会 —at ガルバストクラフ



[考察団と水辺の会との研究交流会]



[朝日新聞、新潟日報に掲載される]

●馬家溝河改造構想VS通船川ルネッサンス構想

5月13日から23日までハルビン市から5人の考察団（何団長以下行政3名、都市開発会社2名）が新潟県内の水辺環境や施設の視察をするために訪れた。団員と新潟の水辺を考える会のメンバーと水辺の開発や再生整備について情報や意見の交換を行ない、その後交流会を行ないました。何故馬家溝河（マジヤコウ川）なのか？馬家溝河とは？と面喰らった会員も多かったと思いますが事務局の準備不足の中で集まってくれ

た会員に感謝します。通訳は新潟大経済学部学生の孫さん。専門用語多く、キタックの李さんの助成もあり多くの意見交換ができましたが時間が不足ぎみでした。

●都市河川・馬家溝河再改修の視察交流

きっかけは筆者が昨年'94年7月30日～8月8日の『中小都市の汚水処理に関する技術交流視察団』に加わってハルビンの馬家溝河周辺都市再開発を視察し、開発を担当する公司（営利と非営利を同時追求する会社公団のような組織）や市政府の技術者と意見交換をしたことでした。その時感じたことは日本の20年前の川の現状と同じで、河川環境整備が従来のハード中心の護岸整備で行なわれていたことです。見た目の河川改修だけに終わらないように生態環境の改善、文化環境の再生、水と緑のみちの形成等「新しい発想の川づくり」と利用者で管理者である「住民参加の川づくり」を提案しましたところ概ね同意を得ることができました。

●市民が考え提案する水辺の街へ！！

交流研究会では馬家溝河改造の最優先事項は汚水処理のシステム環境整備という何団長の説明する現実論と通船川で求められるであろう水際の自然環境基盤の整備の必要性が馬家溝河にもあるのではという理想論とが話題となりました。ハルビン市の平均年降雨量550mm、冬期-40度、300万人の人口集中など日本の常識では把握できないことや下水や河川改修、都市開発などを誰がするのか等十分に意見交換できないこともあった。しかし水辺環境を改善し魅力的な空間をつくることでは共通した思い入れが両者にあることが確認できたと思う。



[自然河川イメージが残る馬家溝河の上流未整備地区]



[都市再開発で人工的な改修をした馬家溝河の中流整備地区]

中国ハルビン市の中央を流れる馬家溝河と我が新潟市の市街地を流れる通船川とは幾つかの共通点があります。

- 1.馬家溝河は大河松花江に注ぎ、通船川は阿賀野川と信濃川につながっている。
- 2.低層住宅や低利用地を沿川に抱える。
- 3.排水性や水質が悪い。
- 4.都市内の重要な水辺空間、河川環境であり、民地や公共用地など環境共生都市づくりのモデルとなる。
- 5.沿川住民、沿川企業、行政、市民、専門家、技術者の相互の努力によってしか真の環境改善の進まない川である。

●新潟の水辺を考える会とハルビンの水辺の会との交流を是非!!!



[飛入りもあって20数名での交流会]

通船川の再生へ向けた市民の関わり、提案、実践はこれからである。是非、市民や企業、行政、専門家の関わるプロセスを物語風に絵説きをしたパンフレットを右手にビデオ映像を左手にもってハルビン市の馬家溝河流域の市民の会との交流をしたいものである。中国式の一気飲み乾杯に参りながら酒の勢いだけでなく真面目に馬家溝河訪問を考えた人も多かったのでは。

いづれにせよ、21世紀は環境の時代と言われる。上流(生産)でも下流(消費)でもなく河口(有限な環境)から全てを発想しなければならなくなる時代と言う意味である。それを、政府や自治体の政策、企業のPL法(製造物責任法)だけでなく市民が環境を考え行動し管理することの求める時代に入った。そういう認識で意見交流ができれば幸いである。

文責：世話人 相楽 治

県内水辺レポート番外編

通船川の鳥たち

通船川プロジェクトの一環として、通船川にはどんな野鳥がいるのか、一年掛かりで調査することにした。この調査を通じて、通船川が鳥類にとってどのような生活の場を作り出しているのかを探ってみようというのが趣旨である。

私と高橋 正良の2人で毎月1回、第一貯木場、第二貯木場の2地点で調査を行っている。

これまでに4月、5月と2回調査を行っており、通船川の貯木場だけでこれまでに10目18科23種が確認されている。

日本では約550種、新潟県ではそのうち約250種が確認されているといわれている。

特に驚いたのは5月15日第一貯木場の水面から出ている杭にカワセミを見たことであろう。

確認したときの様子は杭のうえから餌をねらって水面にダイビングしていた。

カワセミは一般には水のきれいで、餌である魚が多くいるところに出るイメージが強い鳥であるが、それが通船川で見られようとは.....

今後季節が変わっていく中で、どのように鳥類相が変わっていくか楽しみである。

通船川鳥類調査班 杉山 泰彦

松浜トンボ愛好会ができました

阿賀野川の河口部の右岸部に、「ひょうたん池」「松浜の沼」などと地元で呼ばれている湖沼があります。この池には、新潟付近では見られなくなった沢山のトンボが生息しています。中でもモノサシホ科のオモノサシホは、日本では利根川と信濃川の周辺だけに遺存分布するトンボで、最近まで新潟県からは姿を消したと思われていた貴重なトンボです。

新潟市のトンボ研究家、栃倉九郎先生がこの池に生息することを確認され、それ以来このトンボの保護を求める声が上がっていました。松浜トンボ愛好会は、オモノサシホが棲む松浜の池の自然を守っていくことを目的に今年3月に設立されました。会長は地元松浜町内会長の高山忠さん（新潟市松浜5-7-3 Phone 025-259-2700）で、会員は松浜周辺の市民、大学や各学校の先生、県・市の議員、小中学生など多彩なメンバーで構成され、会員は順調に増えています。

会では、松浜の池の自然を調べ学ぶことが第一歩だと周辺の植物、鳥類、魚類、昆虫などの観察会を、専門の先生方を講師に行っています。また、池の清掃や、海浜植物を踏み荒らす車の規制などにも取り組むことにしています。

新潟市内では最も優れた自然環境を保っている水辺の空間を守り、市民が楽しく自然観察ができるような、池づくりの夢を語り合っていると、楽しみながら活動しています。

水辺を考える会の皆さんも、ぜひ会員になって下さい。会費は年間1,000円です。

問い合わせ先：新潟市松浜5-7-5 佐藤方 松浜トンボ愛好会事務局 Phone 259-6605

佐藤 祥子



右岸の胡桃山付近に飛来し巣材を探るサギ

阿賀野川・大島のサギ

阿賀野川にかかる泰平橋上流に大島と呼ばれる中州がある。サギが使用していないモノを含め数千の巣があり、アオサギ、ゴイサギ、ダイサギ、チュウサギ（希少種）、コサギ、アマサギなど千組以上の営巣が確認されている。数年前、大島で砂利採取を行ったため、サギが営巣地を松浜の人家近くの松林に移転し、悪臭や鳴き声のため、周囲の住民から苦情が出た。大島のサギの巣を守る声が上がると、河川管理者が理解を示し、砂利採取を中止したので、サギは翌年から中州に戻った。



概略位置図

去年、日本海沿岸東北自動車道が大島を横断すると発表された。県北はロックド事件の確執もあり、何かと冷や飯を食わされている地域である。日沿道は県北の住民が熱望するモノで、経済的理由だけでなく、被災時のライフライン、リダンダンシーとしても重要である。私自身も県北に短時間でいけるメリットは大きい。しかし、このまま放置し、サギが大島で営巣を続ける場合、高速道を走行する車とサギが衝突して事故が起きたり、反対にサギが大島を放棄した場合、人家周辺に営巣し、再び被害が出る可能性がある。

日沿道の通過位置を変更することは、今の時点ではインターの取り付けの関係などで難しいとのことであった。都市計画決定を覆し、工事をやり直す努力よりも、ミティゲーション（開発行為を行う際、自然破壊を最小限にし、緩和措置をするなど、環境に配慮すること）を行うのが合理的である。私案ではあるが、ドイツのアウトバーン建設の際、バイエルン州建設局が採用したアラッハの森の調整・補償措置を良い手本とし、樹木を含め中州全体を移転したり、河川敷の別な場所にサギの営巣適地を作るなど検討してほしいと思う。

野鳥の会は、サギと日沿道の問題の解決に悩む行政と一緒に、知恵を絞り、汗を流してはいかかかと思う。

(財) 日本野鳥の会・新潟県支部報より

高橋 正良

ハラビロトンボ

腹が太くて偏平な小型のトンボ。
腐食栄養型の沼や湿地を好む。闘争心が旺盛で、数個体が入り乱れて縄張り争いをやる時などに発する羽音はちょっとした迫力である。

羽化直後は黄色に黒い条があるが、半成熟の雄は黒く変色して、ピロード状となり、さらに老熟すると青白くなる。

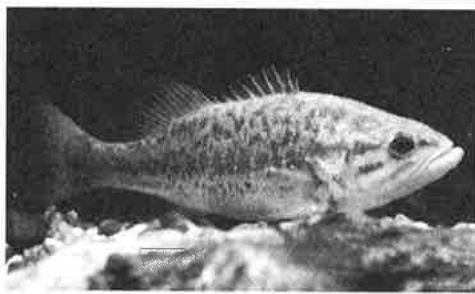
様々な成熟段階の個体が混ざりあって群飛する姿は楽しい。 石月 升



魚類—その3 オオクチバス

北米原産の外来魚で別名ブラックバス、在来の魚たちを食い荒らし、各地で問題をおこしている。もっとも当のオオクチバスには罪はない。他の魚を食うのは、自然界の摂理にしたがったまでの事だ。生態系へのダメージも考えず、この危険な魚を無節操に自然界に放す人間の方が悪者である。

県内には十数年前に持ち込まれ、今では平野部の下流域、池沼に広がり、魚野川でも繁殖している。ルアー釣りの対象魚として、あるいはヘラブナ釣りを邪魔する小魚



を根絶やしにするために放されるケースもある。琵琶湖産のアユにも混じって入ってくる。 井上 信夫

井上 信夫

松浜の池の鳥

1995年5月13日(日)は阿賀野川の河口・右岸にある松浜の池(沼とも言われている)において「松浜トンボ愛好会」の手で植物観察会が催された。家族連れで参加し、焼ソバをおいしく食べた。観察した鳥をレポートする。

私と水辺の会の杉山君の二人で、アオザギ、ヨシゴイ、キンクロハジロ、トビ(昨年営巣)、パン、ウミネコ、モズ、オオヨシキリ、ヒバリ、ツバメ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス(今年も営巣)の13種類を確認した。この他にヒクイナと思われる鳴き声が聞かれた。ヒクイナは新潟周辺のたんぼが乾田化された近年、急速に減少したと言われており、私も鳴き声には自信がもてないので確実なデータとしては残せないと思う。

私は、この池には季節ごとに訪れる程度では



自然じよの会 尾崎 富衛先生による植物指導

ある。春や夏には釣り人が、秋や冬にはミコアイサのような魚食性のカモが見られる。いずれも魚が多い証拠である。魚が多くいるということは、その餌になる水生昆虫や植物も多いはずである。新潟市内に残された池や沼は、近年ごく少なくなり、その価値は計り知れないものがある。

高橋 正良

ひつじ草

高橋 裕雄

午後2時、未（ひつじ）の刻に花を咲かせることからこの名がついたという、水蓮の和種とって間違いないのだろう。

以前、蒲原平野のあちらこちらの水辺で、夏から中秋を過ぎる頃まで、よるになってもなお白い花を見ることができた。

一度それと知ると忘れられない興奮を感じて、発見するととても嬉しかった。北海道から九州まで、尾瀬にも勿論、環境の良い池の端で葵と混じり合って生きづいている。

何年か前天皇家の末娘さんがひつじ草を華紋にしたと聞いて自然に関心のある方だと驚いた。

私もこの花が大好きで、自分の仕事、陶器の紋様にモチーフとし多用している。

早朝、神々しいまでに美しいハスの花は遠い存在に思えた。園芸種の水蓮たちは南国的で日本の自然に合わない感じがしている。

カヌーに乗り始めた頃、ひつじ草を目の前にしたのは、15年も昔の夕刻であった。黒くなってゆく水面に白く端麗でかわいらしい花たちが今も脳裏に浮かび上がってくる。

大通川に新しい水門の工事が始まり、同時に狭くなっていた川の入口は浚渫され、あの古城のように美しかった水門は消えた。そしてひつじ草は翌年もまたその翌年も現れず、

絶えてしまったのだろう。

9度目の夏が来る。消えてしまったものを惜しんでばかりはいられない。

再び大通川にひつじ草の花を咲かせたいと考えるようになった。



会員紹介

MEMBER'S



菊地 静香



皆様はじめまして。私は今、横浜にある関東学院大学で河川工学を専攻しています。出身は北海道夕張市。今回、高橋さんの紹介で入会しました。どこかでみなさんとお会いできる事を楽しみにしています。



高橋 伸弘



快晴の日の散歩と同じくらい、雨の中を歩くことが好きです。そんな私の趣味は、ミュージカル鑑賞と、水辺でキャンプをすることです。
・・・おわり



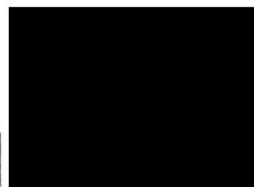
深川 宏栄



出身は、新潟市のとなりの西川町。現在妻1人、子2人の4人家族。毎日西川町から新潟市へ車で通勤しています。趣味は中学生から現在までからうじて続けているバスケがメインで、会社でバレーを集めて市民大会に出ています。ご興味のある方はご連絡いただければ、大歓迎。(部員6名くらいです)最近柄にもなく、「環境」なんてことに興味を持ち、相楽さんの恐い顔に脅されてこの度入会させていただくことになりました。1917系ではなかったのですが、子供の為にもこの会を利用させていただきたいと考えています。



西本 靖男



本年4月より新潟市内に勤務。信濃川の河川事業と新潟海岸の保全事業を担当する事務所です。兵庫県西端の田舎町の出身。建設省に入省後、長野県(2回)、北海道、東京、山梨、富山県に勤務。各地で様々な文化、人、自然にふれることができました。



福原 毅



新潟市では結構有名な津南町で、郷土の湿地を調査し、保護するための活動を行っています。現在は、名水百選・竜ヶ窪周辺の動植物調査と月一回定例の観察会を重点的に活動していきます。信濃川中流域や高山性の湿地などの情報をお送りできるかと思います。



北村 尚之



街に林や美しい川があることを願う学生です。願いを叶えるのは、市民運動か、行政と法律か、専門家なのか分かりませんが、自分は観察会、カヌー、ダイビング、ハイキングなどを楽しみながら考えたいです。

EVENT & BOOKS

イベント情報

1 いのち=鼓動 世界が出会う

日時 ● 1995年6月26日(月) 午後6:00~
場所 ● NEX21 6F
内容 ● 打楽器コンサート「飛天ユニット」入場料¥3,000-
主催:いのちの集い新潟実行委員会 (025-286-9716)

3 「にいがた夢海岸」~なぎさへのいざない~

日時 ● 1995年7月30日(日)~7月31日(月) 午前9:00~
場所 ● 栄小学校裏・デュオ(堀之内)
内容 ● 西海岸イベント・西海岸シンポジウム
主催:運輸省・新潟県・新潟市・イベント実行委員会

5 水辺シンポジウム『通船川の夢を語る』(仮称)

日時 ● 1995年11月18日(土) 午後1:00~
場所 ● 新潟市万代市民会館
内容 ● 通船川についての報告会 パネルディスカッション「通船川にかけた夢」
主催:新潟市東地区公民館、新潟の水辺を考える会他

2 第11回水郷水都全国会議横浜大会

日時 ● 1995年7月28日(金)~7月30日(日) 午前10:00~
場所 ● 横浜市教育文化ホール、横浜市技能文化会館
内容 ● 28・30日ディスカッション/29日基調講演・分科会・全体会・交流会
主催:水郷水都全国横浜大会実行委員会 (045-212-5835)

4 第6回世界湖沼会議霞ヶ浦'95

日時 ● 1995年10月23日(月)~10月27日(金) 午前10:00~
場所 ● 筑波大学会館・土浦市民会館
内容 ● 記念講演・基調講演・分科会・霞ヶ浦セッション
主催:世界湖沼会議実行委員会 (0292-24-6905)

6 隅田川市民交流実行委員会創設10周年記念シンポジウム

日時 ● 1995年11月23日(木) 午後2時~
場所 ● 隅田川畔「すみだリバーサイドホール」
内容 ● シンポジウム「21世紀の望ましい川の姿」
主催:隅田川市民交流実行委員会 (03-3872-7441)

通船川ウォッチング ~通船川の植物と水の流れ~

日時 ● 1995年6月25日(日) 午前9:00~午後1:00
場所 ● 東地区公民館玄関前集合
内容 ● 川辺の植物の観察と水についての学習
講師:新潟大学理学部 石沢 進助教授
定員30人
参加費300円(保険料・資料代)
主催者 ● 東地区公民館、新潟の水辺を考える会
電話番号 ● 025-241-4119

書籍情報

1 しなの川

著者 ● 文:鶴見 正夫 絵:黒井 健
出版社 ● PHP研究所
(定価1,400円 税込)
内容 ● 絵とことばのリズム、ひびき、
広がり...の中に新潟県出身の
二人の信濃川への想いを感じ
ます。私たちそれぞれの想い
と共鳴するかの様な絵本で
す。



「新潟の水辺を考える会」のご案内

●この会は、遊び半分・真面目半分で活動しています。●ウォッチングには、家族ぐるみで子供達も一緒に参加したりしています。●自分の足で水辺を歩くなりして、自分で感じたことから、自分の水辺を発見していく、あるいは考えていくことを大切にしています。●今までとは違った視点から、あらためて自分の身の回りに目を向けてみると、同じものを見ているのに今までとは違うものに見えてきます。新しい発見があります。自分の世界もまた少し広がってきます。●この会も色々な分野の人達が集まって、それぞれの世界がもっと広がっていくような出会いの場を提供できる会にしたいと考えています。あなたの参加お待ちしております。

■設立年:1987年10月1日 ■目的:水辺に関わる自然、歴史、文化、風俗、スポーツ、レクリエーション並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、地域の生活向上に寄与することを目的とする。 ■代表者:大熊孝(新潟大学工学部教授) ■会員数:個人100名、法人9団体 ■活動概要:①水辺シンポジウム開催②水辺ウォッチング③会報「新潟の水辺だより」発行④水辺環境整備に関する学習会⑤長野県富山県の水辺グループとの交流会 ■年会費:個人会員2,000円賛助会員(法人など)10,000円 ■申込方法:氏名、性別、年齢、住所、電話番号、職業、勤務先住所を記入の上、下記の所までご連絡下さい。

〒950-21新潟市大学南1丁目7821-5株式会社グリーンシグマ内
Phone 025-263-2733 FAX 025-263-1134

編集後記

最近新入会員がたくさん増えた。会員紹介のページをもっと増やしてもいいかなと思っている。また、この春の統一地方選で水辺の会から複数の初当選者がでた。普通の市民の集まりが8年目を迎え、どんどん楽しく、力強くなっていく。

朝日新聞(新潟第二5月9日~5月13日)と新潟日報(6月9日~)に通船川を取り上げた連載記事が掲載された。その理由は、いずれも新聞社にも水辺の会の会員がいるためもあるが、市民参加の都市河川の再生という課題が、時代の流れにあっているからだ。

6月8日の「松之山たんばシンポジウム」に参加し、日本の中山間地とグリーンシグマのあり方を勉強した。棚田は日本の原風景の一つと言うだけでは守りきれない。都市と中山間地のネットワークが新しい時代に入っている。

皆さんの原稿をお待ちしています。できればNIFTYのPDC01270にお願いします。

★原稿受け付け★
〒950 新潟市河渡2-2-8

株式会社サザンウインド内 高橋 正良
Phone 025-271-7515 Fax 025-2271-1884